

キラリ
光るまち

小さな温泉地の挑戦

黒石温泉郷の概要

南八甲田山のふもとに位置する小嵐山・黒石温泉郷は、400年以上の歴史を誇る温湯（ぬるめ）温泉や板留温泉、ランプの宿として全国的に有名な青荷温泉、落合温泉、大川原温泉と5つの小さな温泉地があり、小規模で個性的な宿泊施設が全部で17軒、宿泊最大人数は100名以上収容2軒、70名以上収容1軒、40名以上収容2軒、その他客室数室での家族経営という施設が多い。

かつてこの温泉地は、湯治客や国のダム工事による長期滞在者が宿泊客の大部分を占めていたが、県内農家の出稼ぎ形態の変化に伴う湯治客の減少、団体・グループ旅行の減少、旅行者の宿泊予約方法の変化への対応の遅れから年々宿泊客が減少し、近年は地域の数少ないリピーター、湯治客で経営していた。2009年1月、東北新幹線全線開業を意識し誘客活動を展開していくため、宿泊施設全17軒や温泉郷エリアの地域団体、観光施設らが参画する小嵐山・

黒石温泉郷活性化協議会を設立した（会員55名）。

情報格差からの脱却

家族経営の多い宿泊施設では経営者の高齢化が進みネット化の遅れが深刻な問題となっていた。このことに対応するため当協議会若手スタッフを中心に積極的に宿泊施設へネット

ト参画するよう呼びかけ、また、同時に宿泊客増加のシナリオを関係者で共有した。その結果、宿泊施設17軒中インターネットで予約で



馬車で行くりんご狩り

地域の自走

きる施設が2010年7月には11軒になった。（2009年7月の時点では2軒）

2010年4月、ネット参画した宿泊施設が10軒になった。4月は日本でも有数の桜まつりが隣の弘前市で開催されるためネット参画するだけで宿泊集客することができたが、5月以降はそれだけでは集客することが難しいことに気づいた。何か地域に光るもの、あるいは目玉的な観光素材が必要だと感じていた2010年4月、日本商工会議所が募集した「地域資源∞（無限大）全国展開プロジェクト」に地域連携をモデルとした宿泊誘客事業を黒石商工会議所等と申請した。結果は採択にならなかったが、シナリオ作りの際にエリアの農業従事者、観光事業者、飲食店、商工会議所スタッフを含めワークショップを数回開催し、集客のためのシナリオを共有したことで新たな地域連携の確立ができた。また、



青森県黒石市
小嵐山・黒石温泉郷
活性化協議会
プロデューサー
福士 拓弥



地産地消バーベキュー

夏休みの宿泊集客プロジェクト

夏休みに黒石温泉郷に家族連れでお越しいただくため、地域資源を見つめ直し「くろいし温泉郷わいは！ランドプロジェクト」と題して宿泊集客プロジェクトを約1ヶ月間開催。地域の観光素材を見つめ直して情報を整理し、ファミリー層に1泊2日で楽しんでいただけるストーリーを構築。食ではバーベキュー文化や仕出し料理文化の発見、夏野菜の収穫体験、さらに素材として川あそび、ホタルなどさまざまな資源を地域住民の協力のもとプラン化することができた。結果、期間中ネット予約だけの集計で、宿泊者数887名、売上げ857万円と前年の宿泊者数298名、売上げ247万円から大きく伸ばすことができた。ネットを介してエリアが活性化し、家族経営の宿泊施設を中心に元気が出始めた。

くろいし温泉郷わいは！ ランドプロジェクトの展開

2010年夏に展開したプロジェクトが成功したので、秋には朝6時にチェックインできる宿泊プランを目玉に第2弾を開催。そして12月4日東北新幹線全線開業日から第3弾を雪まつり「雪の降るさと2011」と連動し、地域のご当地グルメや雪上車・スノーモービルなど雪あそびを盛り込み展開。2月中旬からは第4弾となる「キーワードは、ぶち旅行」と題して雪上バーベキューなどを盛り込み展開している。これら一連の取り組みは、地元新聞にも数多く紹介され、県内各地へ黒石温泉郷が元気で活発なプロジェクトを推進していると評価され、関係者はもちろん地元住民の自慢にもなってきた。さらに、昨秋には温泉郷エリアの地域住民により高さ4m21cm日本一のジャンボこけし誕生したり、こけしとねぶたを融合したりと地域観光事業者と地元住民の距離もかなり近づいてきている。



黒石温泉なべ誕生

今後の黒石温泉郷

昨年から季節の節目毎に開催してきた宿泊集客事業は、今後も題材を変えて進化させていきたいと考えております。昨年から始めたプロジェクトでは、常に観光領域においての問題にも取り組んでおり、第1弾では減少傾向にあるファミリー旅行、第2弾ではエリアに長く滞在させたいと早朝チェックインプラン、第3弾では東北新幹線全線開業と雪まつり、第4弾では安近短と若年者旅行の創出と、この小さい温泉郷から挑戦し続けております。今後も黒石温泉郷にこれまでなかった国内旅行の新たなマーケットの創出やインバウンド対策も含めた挑戦を地域一丸となって連携を深めながら推し進め、決して大きな温泉郷ではなく、小さな温泉郷だからこそできる小回りの利く日本を代表する温泉地になることを夢見ております。



雪上バーベキュー